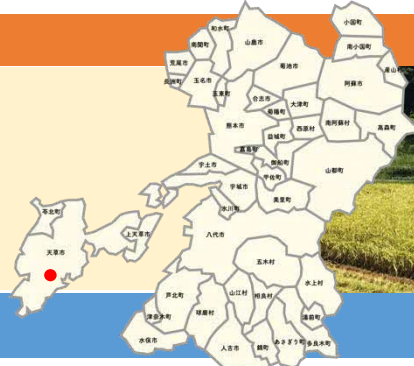


た ち は ら

⑧立原地区 (天草市)

- ◆農家戸数 52戸
- ◆農地面積 26.9ha(うち25haは水田)

～しっかり稼ぐことができる、経済的に強い集落へ～



[中山間農業ビジョンの概要]

集落の課題(現状)

- 米の単作主体で裏作がない
- 機械が個人所有でコスト高
- 米以外に収益を支える作物がない
- 耕作放棄、鳥獣被害が増加

目指す将来像

- 機械の共同利用化で営農コストを下げる
- 若年層で援農隊を結成し農地を維持
- 地域内の特産品を開発し販売する
- 耕作条件を改善、高単価作物を導入

具体的方策

- 基盤整備の実施
 - ・暗渠排水を施工し、水田を乾田化
 - ・幅広い農業を展開できるよう、用水施設の整備
- 高単価作物の導入
 - ・アスパラガス15a、甘藷10aを試験的に導入、特産品として販売
- 地域住民との交流
 - ・特産品販売、収穫体験などで地域内の交流や活性化を図る

[ビジョン策定のプロセス]

モデル地区設定の経緯

◆中山間農業モデル地区の選定に際し、天草では1件も手が上がらなかった。

◆高齢化が進む天草では、新たな挑戦に向かう意識は低く、高単価作物導入、暗渠整備、機械の共同購入などについて否定的な意見が多かった。

◆立原地区の若手農家9名が「何かやってみよう」と手を上げ、天草におけるモデル地区設定へと動き始めた。

「天草F・Group466」の設立

◆地区内の若手農業者9名でグループ「天草F・Group466」を設立。

◆平成29年11月、中山間農業モデル地区に設定される。



農業ビジョンの策定

- ◆検討会は平成30年2月から開始。先進地視察(植木町)や地区内の現地調査を盛り込み、同年3月のビジョン案最終確認まで13回を数えた。
- ◆検討にあたって重視したのは、「本事業にふさわしい立原地区の将来像を描かなければならない」ということ。
- ◆メンバー9名中7名が米農家であったが、農業と地域を維持するためには、「米だけではなく、高単価作物の導入が必要」と考え、中心の目標に掲げた。
- ◆検討・視察を重ね、最終的には「アスパラガスを15a、甘藷10aを作付けしよう」という具体的な目標を設定するに至った。

共同経営という視点

- ◆立原地区の取り組みで特徴的なのは、法人ではない個人グループということ。
- ◆重要なのは「共同経営という視点」である。補助金を受け取るだけではなく、自ら経済的リスクを負うべきだと考えたのである。
- ◆ハウス整備の補助額との差額80万円を、有志4名が共同経営者となりJAから融資を受けた。
- ◆このような視点と覚悟があったことで地域への説得力も生まれたと思われる。

⑧立原地区(天草市)

～しっかり稼ぐことができる、経済的に強い集落へ～

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和3年度):①アスパラガスの作付面積を15a増加 ②収穫体験を1回以上実施

1. 基盤整備の実施

- ◆暗渠排水を施工し、水田の乾田化を図る。
- ◆施設園芸など幅広い農業が展開できるよう用水施設の整備を行う。

◆平成30年度から令和元年度の2カ年で、暗渠排水の整備を行い、水はけの悪い土地の乾田化を実施。アスパラガス栽培のハウス整備を行うことができた。

2. 高単価作物の導入

- ◆高単価作物としてアスパラガス15aと甘藷10aを試験的に導入する。
- ◆アスパラガスと甘藷を地域の特産品として位置づけ直売所で販売する。

◆アスパラガスは作付の目標を15aとしていたが、現状、7aの達成にとどまっている。令和2年度も7aの作付を計画している。
◆甘藷については、作付面積10aの目標をクリアしている。
◆但し、アスパラ・甘藷いずれも試験段階で、まだ試行錯誤の現状である。

3. 地域の住民との交流

- ◆特産品の販売や収穫体験などを通じて地域の子供会や老人会との交流により地域の活性化を図る。

◆アスパラガスはまだ収穫前だが、甘藷は「ふるさと直販店 立原の里」で販売した。
◆平成31年1月、どんどやを開催し、子どもたちや近所の人で賑わった。
◆芋掘り体験を、農家の家族や子どもたち向けに実施。

4. 機械の共同購入

- ◆農業機械の共同購入・共同利用を行い、地区の農業効率化を図る。

◆補助を受けて田植え機、コンバイン(収穫機)、乾燥機を平成30年度に共同購入。令和元年度から共同使用。
◆コンバインを購入したので、稲刈りを近隣農家から受託。2反程度かと想定していたら、目標の3倍となった。
◆但し、受託作業は地域のために重要だが、ほとんど利益にならない。

[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

- ◆アスパラガスは目標15aに対して、平成31年度は7aにとどまる。令和2年度も7aの作付の計画。
- ◆暗渠排水工事によりアスパラのハウス整備を実現。
- ◆甘藷の栽培と収穫体験の手応え。
- ◆機械の共同購入により、稲刈りの受託作業が盛況。

2. 今後の展開方向

- ◆アスパラガスは初めての収穫で、作業量が見えない。結果を見た上で、今後の計画を立てる必要がある。
- ◆さらに魅力的で楽しい収穫体験の展開。
- ◆地域のリーダーをいかに育てていくか。